



つがるの収穫遅れに注意しましょう！

1. 適期収穫で品質アップ！

今年の早生種の熟度は、7月以降高温で推移した影響から、平年に比べ硬度・酸度が低い傾向にあります。そのため、収穫が遅れると味抜けや軟質化など品質の低下が心配されます。

収穫することで残ったりんごの着色が進みやすくなるため、着色の進んだものから随時スグリもぎを行い、適期収穫に努めましょう。



ポイント！ 収穫はストッポール散布後 25 日までに終える！

ストッポール散布後 25 日を過ぎると、落果するものや導管切れを起こすものが増え、品質が急激に低下します。今年は着色遅れの果実が多いものの、着色を待ちすぎると品質低下が心配されることから、着色が進んだものから「こまめに収穫(スグリもぎ)」を行いましょ。

2. 薬剤散布 今年から基準防除として計画されています。全園地に散布を！

すす斑病やすず点病、褐斑病等、炭そ病の発生も一部園地で見られていますので、収穫が終了した園地も含めて散布を行いましょ。

散布回数	散布時期	対象病虫害	基準薬剤	1,000 当たりの調合量
13 9月中旬 500L/10a	9/12頃	すす斑・すす点病 黒星病 モモシクイガ・コカクモンハマキ ナシヒメシクイガ	ストライド(顆水) 1,500倍 オリオン(水) 1,000倍	666g(2袋) 1kg(2袋)

3. これからの中・晩生種の管理作業

気象庁発表の1ヶ月予報では、平年よりも気温が高く、特に9月前半は気温が高い予報となっています。

今年は7月の日照量がやや少なく、最低気温が高く推移したことから来年の花芽分化率が低くなる可能性があります。さらに、過着果など樹に負担をかけると隔年結果などにつながります。来年の花芽充実のためにも、もう一度園地を見回り見直し摘果を行ってから着色管理に取り掛かりましょ。

各品種別については、下記や裏面を参考に作業を行いましょ。

ひろさきふじ

- ・葉摘み時期は日中の気温が高い日が多いため、強い葉摘みを行うと「日ヤケ」を助長します。弱い葉摘みを心がけましょ。
 - ・着色管理が遅れても色の進みが悪くなる事から、気温の低下(最低気温15度以下の日が見れた頃)とともに、着色管理を計画的に行いましょ。
 - ・反射シートは葉摘み終了1~2日後に敷くようにし、温度が上がりにくい白いタイプを敷くようにしましょ！
- ジョナゴールド、ふじ など
- ・有袋では、晴天の日や朝晩の除袋は日ヤケを助長するので注意しましょ。
 - ・早くから強い葉摘みを行うと、着色不良の発生や、軟質、油あがり助長するので、絶対にやめましょ。
 - ・反射シートは銀色を敷くようにしましょ。

ひろさきふじは、つる元の葉を摘み取り、新梢の葉を残す。



中生種の落果防止剤の使用について

品種	散布時期	適用	備考
紅玉・世界一	収穫 14 日前頃	収穫前落果のある品種として、従来通りヒオモン 2,000 倍を散布する	混用不可 展着剤不要
トキ・ひろさきふじ 早生ふじ・ジョナ シナノゴールド	異常高温による落果が見られる場合	落ち始めた頃にヒオモン 2,000 倍を散布する	

中央地区のりんごは速やかに！